

ことわざ・慣用句シリーズ

ここでは毎月、覚えておきたいことわざと慣用句を取り上げます。みなさんはどのくらい知っていますか？

慣用句

『あごを出す』

意味: すっかり疲れてしまうこと。

ひとこと: 歩いている時、疲れてくるとあごが前に出るような姿勢になることからきた言葉。

使い方: 厳しい野球部の練習に僕はとうとうあごを出した。

『足が出る』

意味: 出費が予算をオーバーしてしまうこと。

ひとこと: 赤字を出すことの

使い方: 今回の家族旅行は楽しみすぎて足が出たと母が言っていた。

ことわざ

『暑さ寒さも彼岸まで』

意味: 春と秋のお彼岸の頃になると、寒さや暑さもおとろえてほど良い気候になること。

ひとこと: お彼岸とは春分の日と秋分の日をはさみ、前後三日それぞれ七日間のこと。

使い方: 「暑さ寒さも彼岸まで」というが、最近では地球温暖化のせいかな異常気象が続くなあ。

『後は野となれ山となれ』

意味: 自分さえ良ければ後はどうなろうとかまわない。

ひとこと: 対義語として「立つ鳥あとをにごさず」というのがある。

使い方: キャンプで楽しんだ後、彼は「後は野となれ山となれ」とさっさと帰ってしまった。